

# U WAKO<sub>no.02</sub>

特集

## 現代社会学科で 「働く」を研究する。 「生き方」を考える。

卒業したら働かなくちゃいけないの？

そもそも「働く」ってどういうこと？

誰もがぶつかる疑問です。

現代社会学科は、そうした疑問に、  
学問の力を借りてチャレンジできるところ。

先輩たちの“学び”を参考にしながら、  
働き方や生き方のヒントを一緒に見つけてみませんか。

手づくりの「働く人生」設計力を—授業に隠れているヒントを生かそう ②

「働く」と「生き方」をつなげる：卒業生からのメッセージ ③

社会調査士の学びから得たもの：卒業生のインタビュー ④

社会の教員免許取得にチャレンジしてみませんか？ ④

卒業後の私たち：卒業生からのメッセージ ⑤

さまざまな「現場」での体験から学習する ⑥

現代社会学科を卒業する学生たちの進路イメージ ⑧

# 手づくりの「働く人生」設計力を 授業に隠れているヒントを生かそう

：竹信三恵子

就職に悩む学生が増えています。とにかく会社に入らなくてはと、就職サイトと首っ引きで100、200社エントリーしたという話も聞きます。それもひとつの方法です。でも、それだけで、働く場をつかむことができるのでしょうか。

就職は、「働くこと」への入り口です。『路傍の石』という小説には「働くことは、はたを楽にすること」というセリフが出てきます。労働を通じて人から必要とされる実感を味わい、経済的に自立し、税金を払って社会を整え、人間関係を広げて社会に居場所をつくる。就職活動とは、そうした暮らしへの入り口探しです。ですから、自分を必要とする場がどこに、どのようにあるのかという社会構造の理解が不可欠なのです。



## ■ 就職サイト頼みだけでない知恵

みなさんの先輩には、そうした原点に帰って仕事選びを乗り越えた人が少なくありません。U学科のある女子学生は、就職サイトから何十社もエントリーし、すべてはねられて落ち込みました。その末に、「自分はなぜ働きたいのか」を改めて考えてみたそうです。

シングルマザーの母が苦勞して自分を育ててくれた。だから、女性も経済力を持つことが大切と思ったこと。子育てしながら働く母のような女性を助ける仕事をしたいと思ったこと。さらに、授業で、グローバル化で男性雇用も不安定化していると学んだことも思い出しました。そのため各国では、男女が働いて変動に対応する「二本柱型家計」への移行が始まっているというのです。それなら、働く女性のための家事サービス産業に将来性があるのではと、新卒を募集しているこの業界の会社をネット上でさがし、もっとも働きたいと感じた会社の内定を取りつけました。

これらの会社は、就職サイトでは紹介されていませんでした。就職サイトは会社がお金を払って掲載してもらって一種の広告なので、お金を払わない会社は入っていないからです。「自分が必要な情報を集める就職活動の大切さを知りました」と、この先輩は話しています。

## ■ 会社の危うさを見分ける力

働き続けるためには、会社に気に入られるだけでなく、会社の危うさを見分ける力も必要です。若者を使い捨てる「ブラック企業」は、最近でこそ広く知られるようになりました。でも、会社に不利な情報に耳を傾けると会社から警戒され、採用されなくなるのではと不安を感じる学生も少なくありません。

そんな中で、U学科のある男子学生は、授業で学んだ「ブラック企業」についての知識を生かして会社を選びました。在学中、外食産業でアルバイトしていた彼は、その仕事が好きでした。ただ、そこで正社員の働かせ方はどう考えてもブラックだ、と感じました。そこで、外食関係の業界の中で、ブラック度が比較的低いと聞いた外食関連の中堅商社を回り、3社から内定通知をもらうことができました。

## ■ 手造りの働き方設計へ

いい仕事選びには、何のために働きたいのか、会社が抱える問題点は何か、働く側の権利はどうなっているのかといった、社会の仕組みを知ることが不可欠です。また、就職サイトの利点と限界など、情報を読み取るメディア・リテラシーも大切です。こうした情報収集のために、本や統計の読み方、先輩や会社へのインタビュー術など、社会を調べる力の習得も必要です。

U学科の日々の授業には、これら、社会で働くことの基礎になる社会理解のヒントがたくさんあります。こうした社会を見抜く力を養っていくことが、就活の先にある手づくりの「働く人生」設計の重要な一歩になります。

# 「働く」と「生き方」をつなげる

## 卒論は「就職活動の歴史」

相模隆一 (2013年度卒業)

私は卒論で就職活動の歴史について書いてみようと思った。実際に就職活動を行いそのなかで多くの苦悩や理不尽を経験し、この就職活動とはいつごろから始まり、こんな大変になったのはいつごろなのか。ネットの普及による社会の変化、それにより企業への距離が近づき、説明会など選考に参加しやすくなったぶん、就職活動自体はやりやすくなった。それにより多くの内定をもらう学生と何十社も選考を受けても内定をもらえず夏を過ぎても就職活動をつづけている学生の二分化が進んでいる。

しかし景気が悪いからと、その時代に生まれただけなのに学生が被害を受けるのは仕方が無いこととはいえ、なんとも不条理であり悲しいことであるようにも思う。

今年も新卒予定者の就職活動が始まったが、余裕を持って焦らず、自分に自信をもってがんばって欲しいし、無理だけはするなと伝えたい。



会社のキャラクターを持って同僚たちと微笑む大池麻央さん (右端・東京都立川市で)

## 男性に負けず働くことを学んだ

大池麻央 (2012年度卒業)

大学時代は性別役割分業について学び、卒業論文ではスタジオジブリの『魔女の宅急便』を元に「現代の性別役割について」研究をしました。これらを学んだことにより、現代では女性も男性に負けず、働くことができるはずだという意識を持つことができました。

おかげで、入社した総合求人情報サービス会社では、新卒120人のなかで1ヶ月の売り上げ1位を2回、3ヶ月の売り上げ1位をいただき、MVP賞を受けることができました。

これからも大学時代に学んだことを生かし、キャリアウーマンとして、男性に負けずに働きつづけたいと思います。

立を目指して現在勉強を続けています。ゆくゆくは若者教育を支援する法人を設立し、自分が学ばせてもらったことを社会に還元していくことが私の夢です。

大学時代の勉強は、社会で役に立たないと思うかもしれませんが。ですが、人と話すときに学んだ知識が活かされたり、会社や自分がやっていることがどういうことか理解できたりと、視点が確実に変わっていることにも気がつくはずですよ。私自身、大学に行かなければ投資で稼ぐという発想も、独立起業したいという意欲もなかったでしょう。広い意味での教養こそが、時代を生き抜く力になると思います。無駄に思えることをたくさん学ぶことは、ある閾値を超えれば生きる原動力に変化するのです。

## 無駄と思うことをたくさん学ぶこと

平野正明 (2012年度卒業)

大学卒業後は、半年ほど、ビル管理の会社で働いていました。最初の1ヶ月は、社会人マナーや会社の概要、各現場の実作業などを学び、その後中部国際空港でエリアマネージャーとして勤務しましたが、数十年かけて地方部長の椅子を目指すサラリーマン生活に展望を感じることができず退職。まずは投資家として独



## 社会調査士の学びから得たもの

現代社会学科で取得できる資格「社会調査士」は、社会調査(アンケート調査など)から社会を読み解く技法を身に着けるためのものです。この資格の勉強をつうじて得たものは何か、2012年度に卒業した今村遊君にインタビューしました。

——社会に出てから、社会調査士の学びがどう役立っていますか？

2つあります。1つは、統計データを中心とした情報リテラシーです。与えられた情報をそのまま受け取るのではなく、そこからさらに別のことを読み取る力、原因や傾向などを推測する力が身についたと思います。

2つ目は、グループ作業の経験です。「社会調査実習」では、自分の意見の伝え方や、テーマの共有や作業の分担など、グループ内でしっかりコミュニケーションを取ることの重要性を感じました。当時は、班員の1人が途中で辞めるというショックなこ



ともあり、グループ作業の難しさを痛感しました。これら2つの経験は、働く上でプラスになっていると思います。

——就活中は社会調査士の資格が役に立ちましたか？

この資格が就活で直接生かせる分野はきわめて限られています。しかし、面接官から「どんな資格なの?」とよく

質問されるし、大学生活のエピソードとして実習の経験を話したり、就活のネタとして有効に活用できました。

## 社会の教員免許取得にチャレンジしてみませんか？

和光大学には、さまざまな資格を取得できる資格課程という制度があります。たとえば、幼稚園、中学校・高等学校の教員や、図書館司書、社会教育主事、博物館学芸員などになるための教育制度です。なかでも、現代社会学科に入学した学生は、「社会」(中学校教諭)と「地理歴史」・「公民」(高等学校教諭)の教員免許を取得することができます。「将来、社会の先生になってみたいな」と思ったら、ぜひチャレンジしてみてくださいね。

### 教職課程を終えて

山田奈海 (2013年度卒業)

中学校社会、高校地歴・公民の免許の取得にあたって、重要なことは“免許を取得したい”という強い気持ちをもつことだと思います。教職課程では、教える経験が自分になくても多くの課題がまっています。それは専門的な知識を身に付けるだけでなく自分と向き合う試練にもなります。だから困難も少なくありません。でも、そんな時は免許取得をめざす学生どうして声を掛け合い励まし合うことで、仲間意識が生まれ、それがまた頑張る力になります。社会科の免許取得は簡単ではありませんが、得たものも多かったように思います。

とくに教育実習は私にとってとても大きな経験になりました。大



学の講義でいろんなことを学びましたが、教育実習は大学での勉強を実践する場でした。短い期間でしたが、生徒と関わる中で信頼関係を構築し、現場の先生がたの技を学び、授業を重ねるごとに手応えを覚えました。学校や教室の独特の空気感などすべてが新鮮で、私にとって最も勉強になり、心に残った経験といえます。

免許の取得は自分を成長させるきっかけとなるので、これから履修しようか迷っている人はチャレンジしてみてください。自分の研究分野との両立は容易ではありませんが、履修できる講義はできるだけ早い段階で履修するなど計画的に行えば重荷にもならず自分の成長にもつながります。学生だからこそ出来ること、和光大学だからこそ学べることにチャレンジして欲しいと願っています。

## 卒業後の私たち

**寺西 一** (2012年度卒業)

・日本ブラインドサッカー協会事務局勤務

私は学生時代多くの人と出会い、多様な人が集うことの大切さを学びました。私が障がい者である様に、この社会には障がいの有無に留まらずいろいろな人が暮らしています。

誰もが強みを生かし多様であることを快適と思える社会へ。大好きなブラインドサッカーというスポーツでそんな社会を実現するために日々活動しています。

**岡本羽衣** (2011年度卒業)

僕は写真を専門に扱っているギャラリーのアルバイトスタッフとして働き、主にDMのデザイン制作や展示作業を行っています。関わる機会は少ないですが多くの作家やギャラリー関係の方などが訪れるので美術についてとても学ぶことが多い環境です。今の僕の生き甲斐は自分の時間(作品制作、読書、散歩など)を大事にすることです。



ゼミの先輩たちの卒業を祝う会に僕も呼んでもらえた時、大人の仲間入りをしたようで、お腹がくすぐったいような幸せを感じました。くだらない話で笑ったり、真面目な話をしたり—大学時代を振りかえると周りにいた人が今の自分にとって大きな支えになっていることに気づきます。



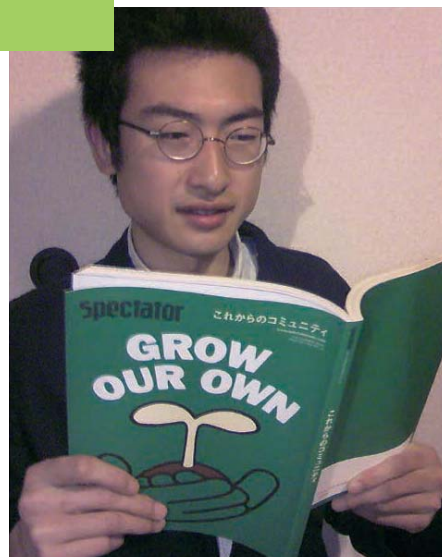
寺西一君(右)は2010年ブラインドサッカー日本代表です。

**小野かな江** (2010年度卒業)

卒業後JAに就職し、今は事務仕事をやっています。もうすぐ四年目になりますが、まだ分からないことも多くお客様にはご迷惑をお掛けすることばかり。しかし日々勉強を掲げ、今後も周りに支えられながら精進していきたいと思います。

**鈴木 拓** (2011年度卒業)

ゼミでは共同体運動について流れを追い考察しました。その後も普段からの関



心事として興味を持ち続けています。

“意識的に生活する”ということを軸に、卒論で考察したことは、現在でも生活に幅を持たせるためのライフワークになっています。

**渡部 光** (2011年度卒業)



和光での二度のフィールドワークの経験が忘れられません。自由な研究、数日間に及ぶ激しい議論の経験が、研究者を目指す今の私の大きなモチベーションになっています。

# さまざまな「現場」での体験から学習する

フィールドワーク(現場調査・体験学習)で体験したことは、進路の選択にも結びついていきます。

## 山形国際ドキュメンタリー映画祭でのフィールドワーク

場所：山形市 期間：2013年10月10～17日 参加者：8名 担当：道場親信



山形国際ドキュメンタリー映画祭は1989年に始まり、13回目を数えます。市内の複数の上映会場で、さまざまなプログラムの映画が1週間上映されます。映画祭を訪れる人々は、自分でプログラムをめぐりながら鑑賞計画を立て、市内を移動しながらドキュメンタリー映画を観るという仕組みになっています。

参加した学生たちも、初日の開会式と最後から1日前の表彰式以外は、自分で映画祭プログラムとにらめっこしながら見たい映画を決め、1週間映画漬けの日々を過ごしました。

現地では、思わぬ人と知り合いになったり、和光大OBの方と飲み会をしたりなど、いろいろな出会いもありました。上映後に行われる監督との質疑応答でも、積極的な発言がありました。途中、何度かのミーティングで情報交換や映画についての意見交換をしながら、あっという間に時間は過ぎていきました。

他のフィールドワークと違い、集団行動ではなく個人行動が多いプログラムでしたが、密度の濃い1週間を過ごし、「行ってよかった」と思える体験をそれぞれができたのではと思います。(道場親信)

## 浜岡・上関原発でのフィールドワーク

2012年8月4～6日(静岡県御前崎市浜岡)  
2012年9月1～7日(山口県熊毛郡上関町)  
参加者：13名 担当：ロバート・リケット



経済産業的に安定した「原発城下町」の浜岡。一方、過疎からの脱却を図って原発誘致による町づくりを望んでいる上関町。誘致の「前」と「後」の地域の状況を比較しながら、自然資源を活かした持続可能な町づくりをめざす地域住民の取り組みについて調べました。(R・リケット)

## マレーシアでのフィールドワーク

場所：クアラルンプール、イポー  
 期間：2012年8月31～9月11日  
 参加者：8名 担当：竹信三恵子



マレーシアの行政新首都ブトラジャヤのモスク



開発のため農民が立ち退きを迫られている農地で、支援のNGOから説明を受ける。



女性労働者の支援にあたるインド系NGOメンバーとその家族たちと：クアラルンプール近郊

移住労働者が産業のほとんどを支えている国って、どんな社会？ 2012年、そんな疑問から、首都クアラルンプールと、その北に位置するイポーを尋ねました。クアラルンプールでは、喫茶店からガソリンスタンドまで、さまざまな国から来た働き手が支えている状況を実感しました。また、働く女性を支援する「サハバット・ワニタ」を訪れ、ビルマからやってきた移住労働者の男性、インド系の女性家事労働者や、女性の工場労働者たちを紹介してもらい、その厳しい労働条件について聞きました。

次に訪れたイポーでは、経済成長の中で、宅地開発で農地を追われる農民たちの移転反対運動について、住民たちの話を聞きました。こうした立ち退き問題も、インド系や中国系の移住労働者の子孫たちの土地を中心に起きており、土着で多数派のマレー系住民との対立を利

用した富裕層の土地奪取の構図が見えてきました。

いずれも解決の難しい問題ですが、移

住労働者を労働力として利用しようとするとき、その人権に配慮しながら行うことの大切さを学んだ旅でした。(竹信三恵子)

## ヨーロッパでのフィールドワーク

場所：ドイツ(ベルリン、ポツダム、ライプツィヒ)、フランス(パリ)、ポーランド(シュチェチン)  
 期間：2013年8月26日～9月9日 参加者：11名 担当：中力えり



〈ベルリンの壁〉と監視塔



〈ベルリンの壁〉があったベルナウアー通り前



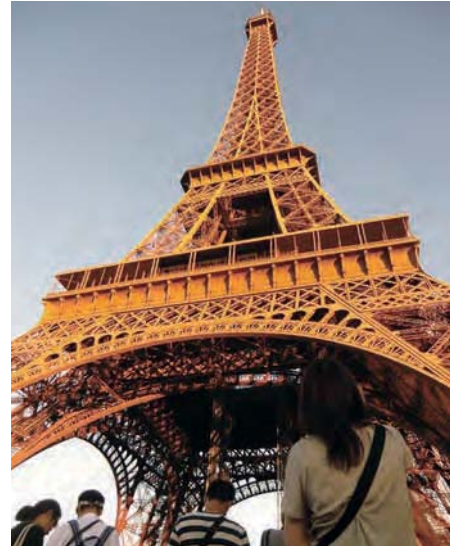
イーストサイド・ギャラリー：ベルリン



ポツダム会談が開かれたツェッティーリエンホーフ宮殿：ベルリン近郊



ザクセンハウゼン強制収容所：ベルリン北部



エッフェル塔：パリ



ヴェルサイユ宮殿 鏡の間：パリ近郊



ルーヴル美術館・逆さピラミッド前で：パリ



〈テロのトポグラフィ〉でナチスについての説明をきく：ベルリン

# 現代社会学科を卒業する学生たちの 進路イメージ

現代社会学科では、2013年度に卒業生の進路について、各ゼミの卒業生の情報を集めて分析してみました。そこから浮び上がってきた進路のイメージを紹介します。下記の進路イメージは、必ずしもその進路に進む卒業生の数の大小を示したものではありません。多くの卒業生は一般企業に就職していますが、それ以外の途を知ること、進路を考える上でのヒントが得られると思います。

## ■ 大学院進学

大学院に進学する人もいます。最近では、明治学院大学、立教大学、日本大学、東京外国語大学、千葉大学、信州大学などに進学しました。卒論研究に熱心だったことに加え、サークル活動や自分なりの活動の場を持っていた人が多いようです。

## ■ ■ 現代社会学科の学びを活かした就職

社会調査士資格を取って卒論に活かし、その意欲で就職につなげた人たち、教員免許を取って先生になった人たちのほか、こんな学び方・進路選択をした人もいます。

A君(2012年度卒)の場合、飲食系の就職を希望しながら、授業やゼミでブラック企業の傾向が強いと知って業界を研究調査、外食産業に食材をおろしている中堅商社ならブラック度が低いと早めにチャレンジし、早期に内定をゲットしました。

## ■ ■ ■ 一般的な就職

毎年たくさんの卒業予定者が「就活」をします。先輩たちの就職先は、販売(小売・卸売)、社会福祉、サービス業が多く、主な就職先企業は下記の通りです。

JA、プリマハム(株)、みずほフィナンシャルグループ、サンドラッグ(株)、ジャパンビナレッジ(株)、エービーシー・マート(株)、セントラル警備保障(株)、第一水産(株)、ユナイテッド・アローズ(株)、井田産業(株)、ジャパンケーブルネット(株)、東急ウェルネス(株)など。

## ■ ■ ■ ■ 非営利企業・組織への就職

「会社」に就職する以外に、地方公務員や、生協などの非営利企業、NPO・NGOなどの市民活動団体で働くことを選択した人もいます。非営利組織は小規模のものが多く、毎年必ず募集しているわけではありません。学生時代から関心を持ち、ボランティアなどで市民活動に参加しながら人間関係を広げていく先に、この進路が開けることが多いようです。

## ■ ■ ■ ■ ■ 固定した就職をしないで生きる

音楽や演劇など表現活動が続けるために、固定した就職をせずにアルバイトをしながら自分の世界を豊かにしている先輩もいます。5ページの「卒業後の私たち」に登場する岡本羽衣君もその一人です。

## ■ ■ ■ ■ ■ ■ 転職・起業・再勉強

就職は1回限りのことではありません。会社の倒産、リストラだけでなく、自分の進路を考え直し、新しい仕事に転職するということは、誰の身にも起こります。希望の職種だと思って入った会社がブラック企業で、そこから脱出して同業他社へ転職したB君、卒業時に内定が取れなかったが、アルバイト先の上司に信頼されて正規採用となったCさん、卒業後に看護学校や専門学校に入り直して希望の就職先に入ったDさんなど、進路を選び直すことも、一度しかない人生において大事なことではないでしょうか。